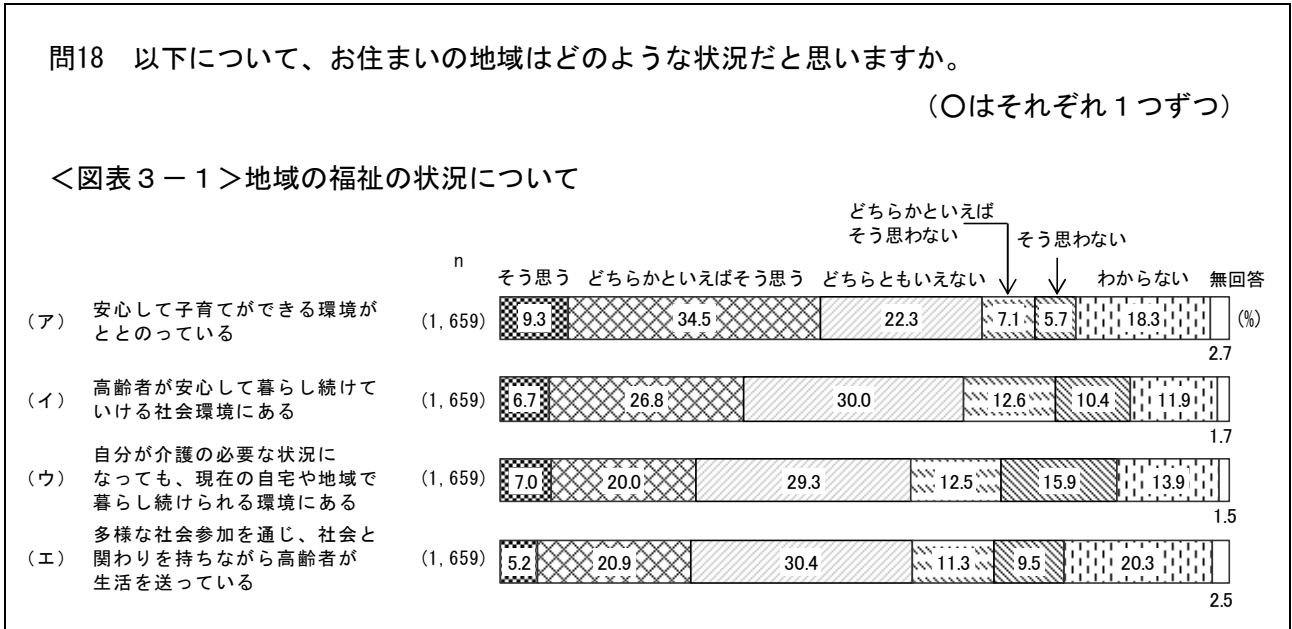


3 福祉について

(1) 地域の福祉の状況について

◇『そう思う（計）』が最も高いのは＜安心して子育てができる環境がととのっている＞で4割台半ば

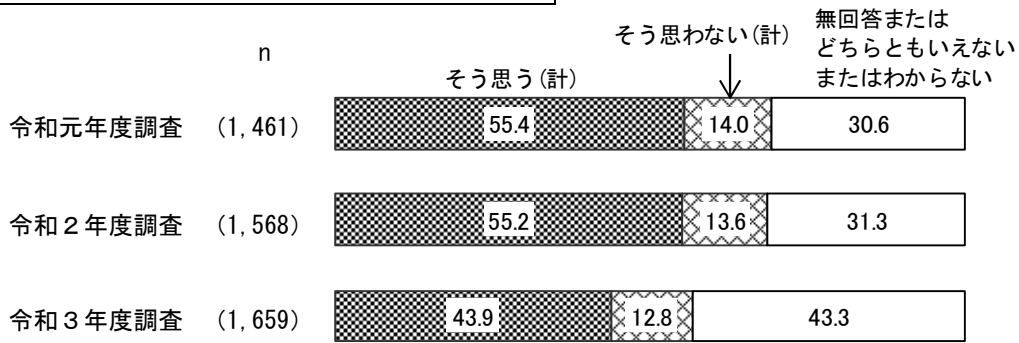


地域の福祉の状況に関する4項目について、お住まいの地域がどのような状況か聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」(43.9%)で4割台半ばとなっており、以下、「(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」(33.5%)が3割台半ば、「(ウ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(26.9%)と「(エ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(26.1%)が2割台半ばで続く。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(28.3%)で約3割となっており、以下、「(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」(23.0%)が2割を超え、「(エ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(20.8%)が2割、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」(12.8%)が1割を超えて続く。(図表3-1)

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

安心して子育てができる環境がととのっている

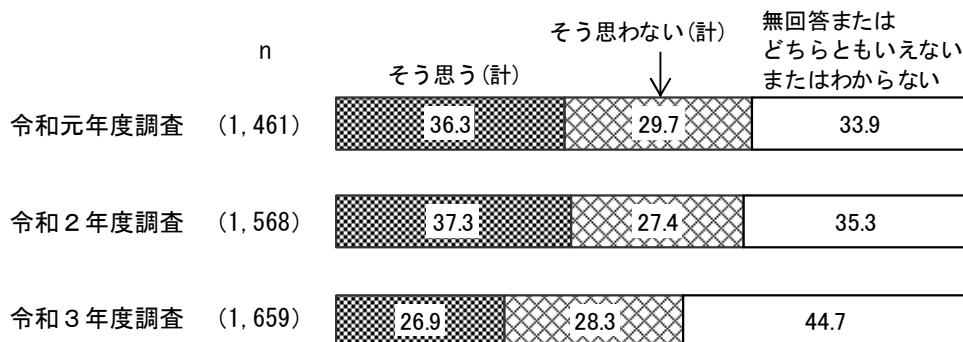


(※) 令和元年度・2年度調査で、「あなたは、自分が安心して子育てできる環境にあると思いますか。子育て中の方は自身のことをお答えください。お子さんがいらっしやらない方や、すでに子育てを終えられた方は、ご家族や近所の方など、身の回りの子育て世代を想定してお答えください。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある

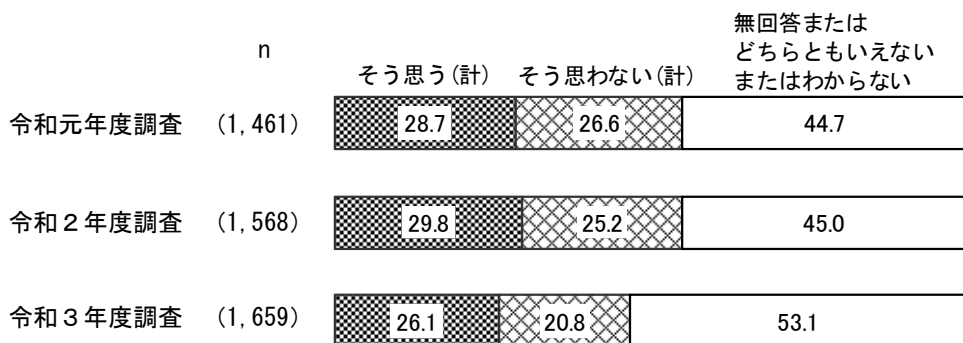
(※) 令和元年度・2年調査で、質問と項目が異なるため、比較不可

自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある



(※) 令和元年度・2年度調査で、「あなたは、自分が介護の必要な状況になっても、現在お住まいの自宅や地域で暮らし続けられると思いますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている



(※) 令和元年度・2年度調査で、「あなたは、千葉県に住む高齢者が多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思いますか。若年層の方は、ご家族や近所の方など、身の回りの高齢者を想定してお答えください。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」の『そう思う（計）』は“印旛地域”（56.3%）が5割台半ばで高くなっている。

一方、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」の『そう思わない（計）』は“香取地域”（36.4%）が3割台半ば、“夷隅地域”（25.7%）が2割台半ば、“長生地域”（22.7%）が2割を超えて高くなっている。

「(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（39.0%）が約4割で高くなっている。

一方、「(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」の『そう思わない（計）』は“香取地域”（63.6%）が6割台半ば、“海匝地域”（44.7%）と“夷隅地域”（44.4%）が4割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」の『そう思わない（計）』は“香取地域”（63.6%）が6割台半ば、“長生地域”（43.2%）が4割を超えて高くなっている。

「(エ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」の『そう思わない（計）』は“千葉地域”（26.6%）が2割台半ばで高くなっている。（図表3-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」の『そう思う（計）』は男性の50代（53.0%）が5割を超えて高くなっている。

「(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」の『そう思う（計）』は男性の75歳以上（47.7%）が約5割、女性の75歳以上（41.8%）が4割を超えて高くなっている。

「(ウ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」の『そう思う（計）』は女性の75歳以上（35.5%）が3割台半ばで高くなっている。

「(エ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」の『そう思う（計）』は女性の75歳以上（36.9%）が3割台半ばで高くなっている。

一方、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」の『そう思わない（計）』は女性の30代（20.6%）と40代（20.5%）が2割で高くなっている。

「(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」の『そう思わない（計）』は男性の50代（32.2%）と女性の50代（31.1%）が3割を超えて高くなっている。

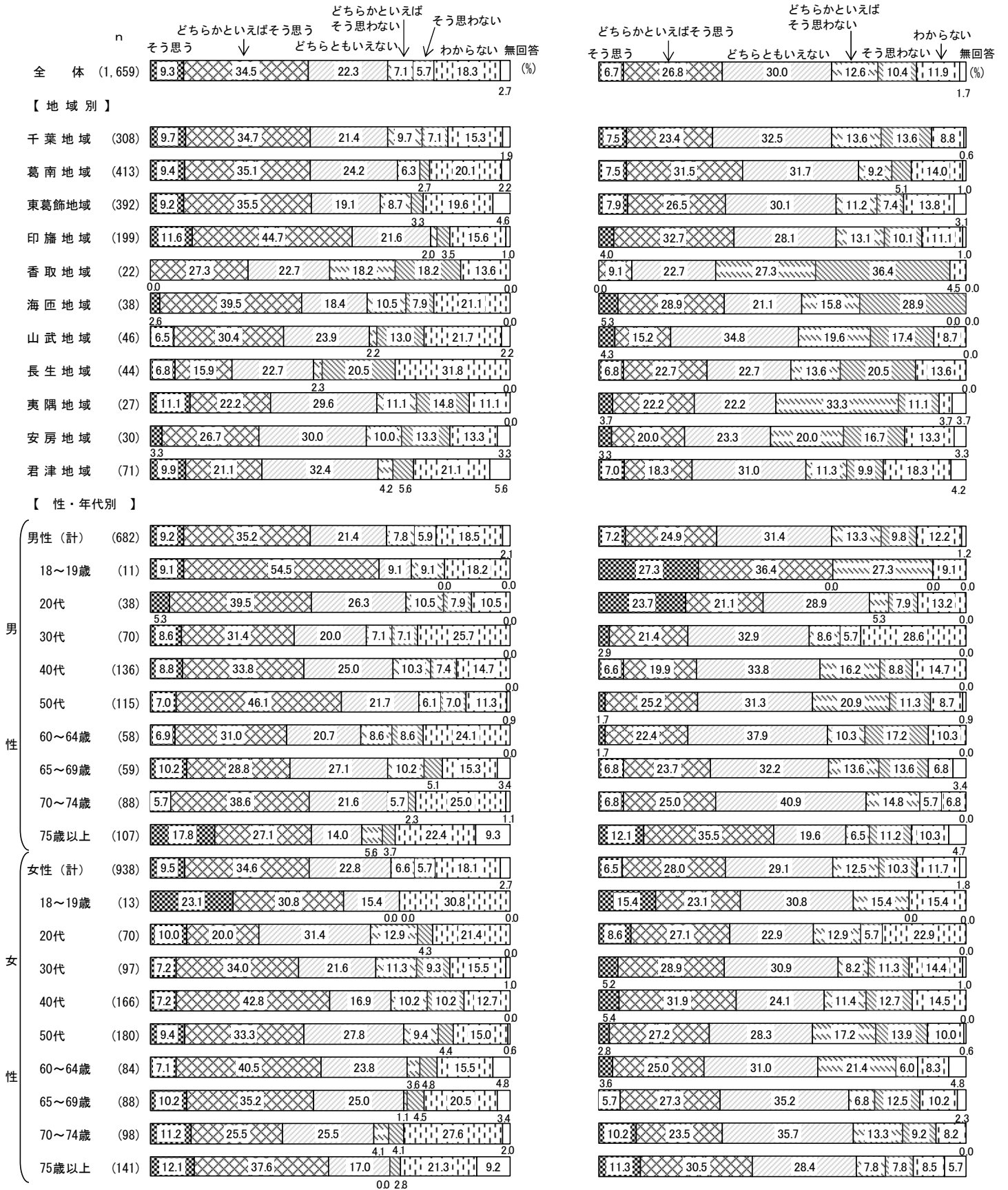
「(ウ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」の『そう思わない（計）』は女性の20代（41.4%）が4割を超え、50代（36.1%）が3割台半ばで高くなっている。

「(エ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」の『そう思わない（計）』は女性の50代（27.8%）が約3割で高くなっている。（図表3-2）

<図表3-2>地域の福祉の状況について／地域別、性・年代別

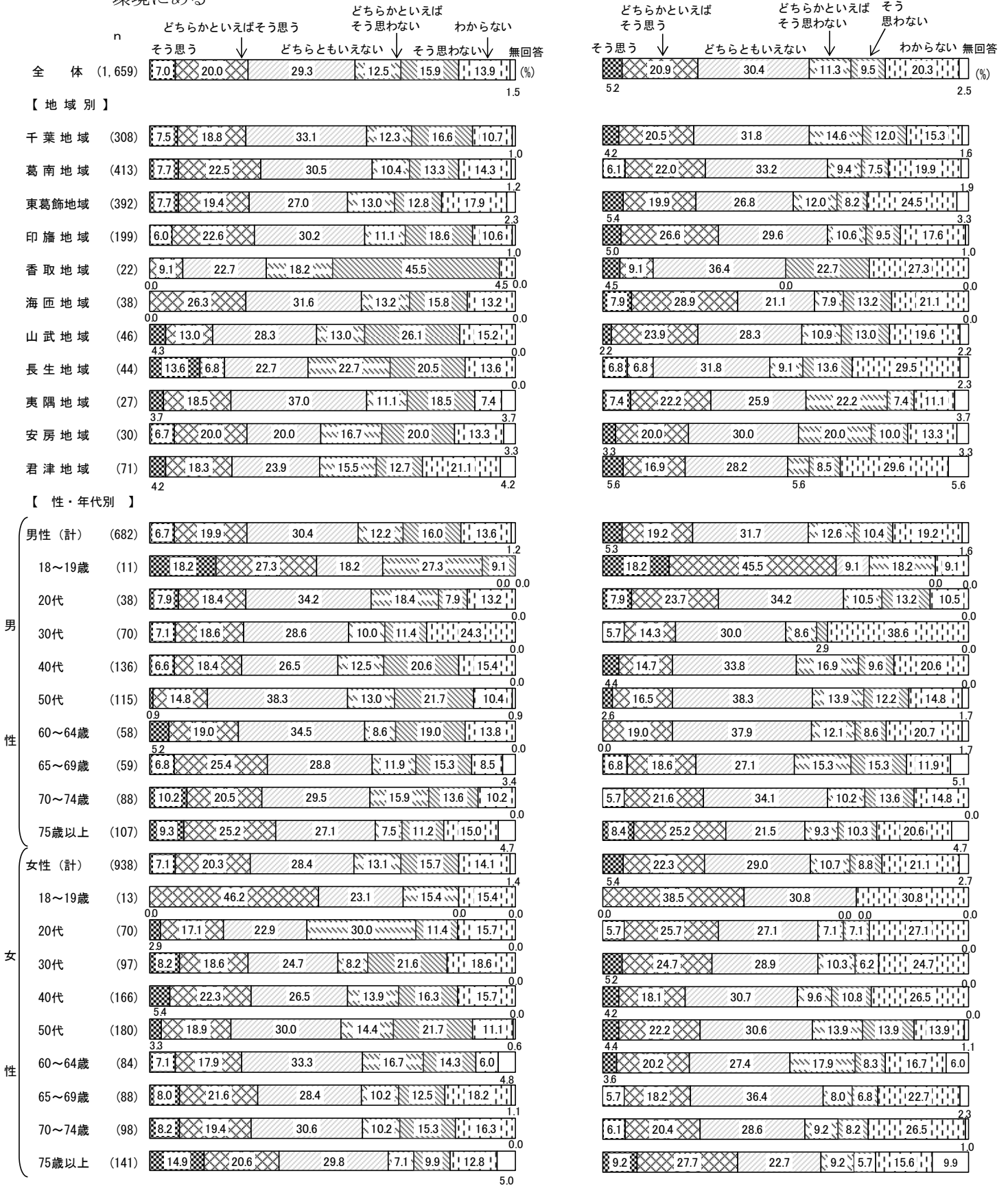
(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている

(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある



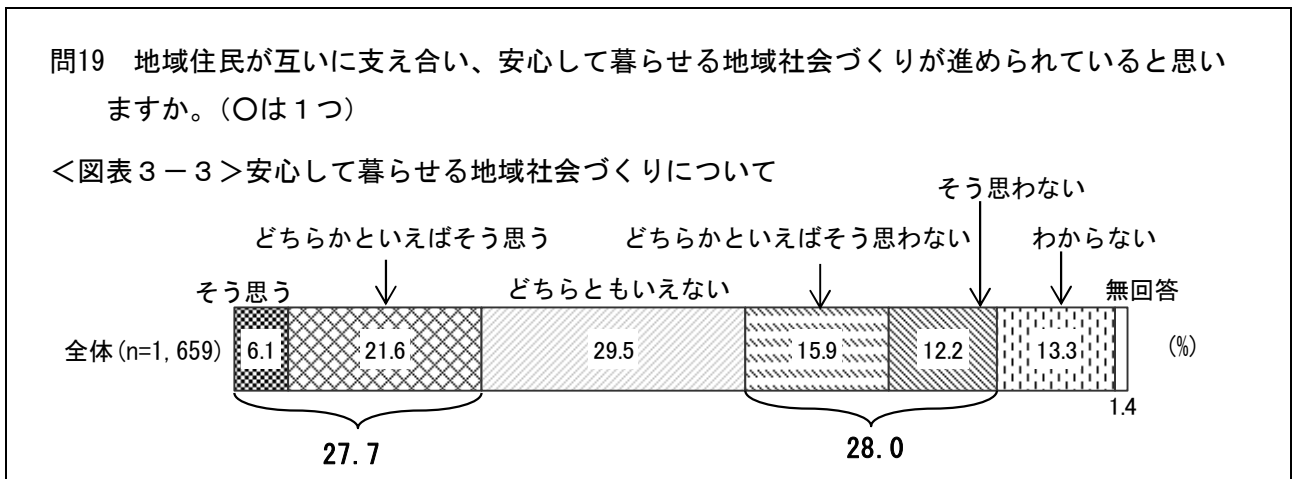
(ウ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある

(エ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている



（2）安心して暮らせる地域社会づくりについて

◇『そう思う（計）』が約3割



地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(6.1%)と「どちらかといえばそう思う」(21.6%)を合わせた『そう思う(計)』(27.7%)が約3割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(15.9%)と「そう思わない」(12.2%)を合わせた『そう思わない(計)』(28.0%)が約3割となっている。(図表3-3)

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）

| | n | そう思う(計) | そう思わない(計) | 無回答または どちらともいえない またはわからない |
|---------|---------|---------|-----------|---------------------------------|
| 令和元年度調査 | (1,461) | 29.4 | 28.8 | 41.8 |
| 令和2年度調査 | (1,568) | 27.9 | 28.7 | 43.4 |
| 令和3年度調査 | (1,659) | 27.7 | 28.0 | 44.2 |

【地域別】

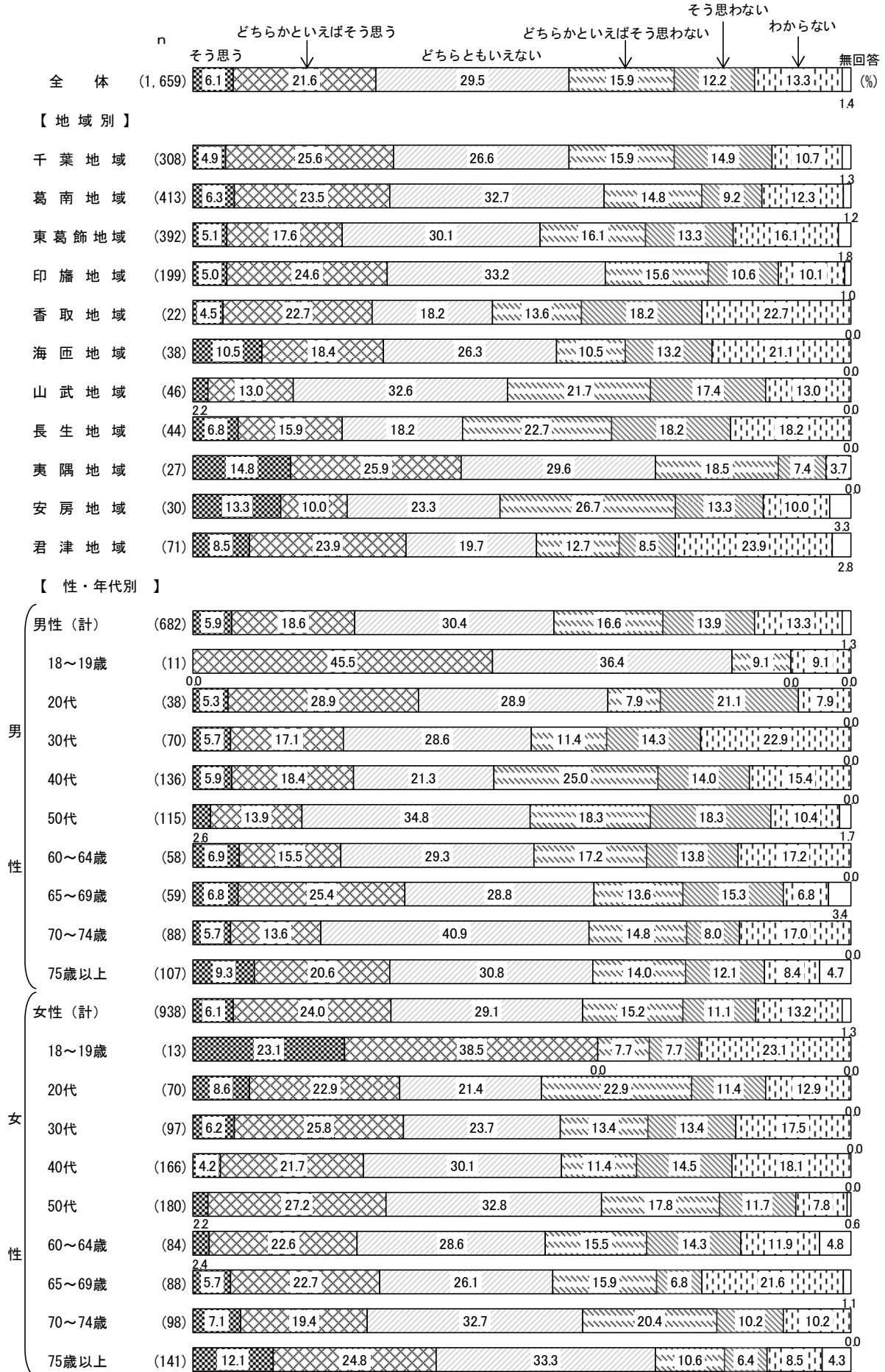
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表3-4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う(計)』は女性の75歳以上(36.9%)が3割台半ばで高くなっている。

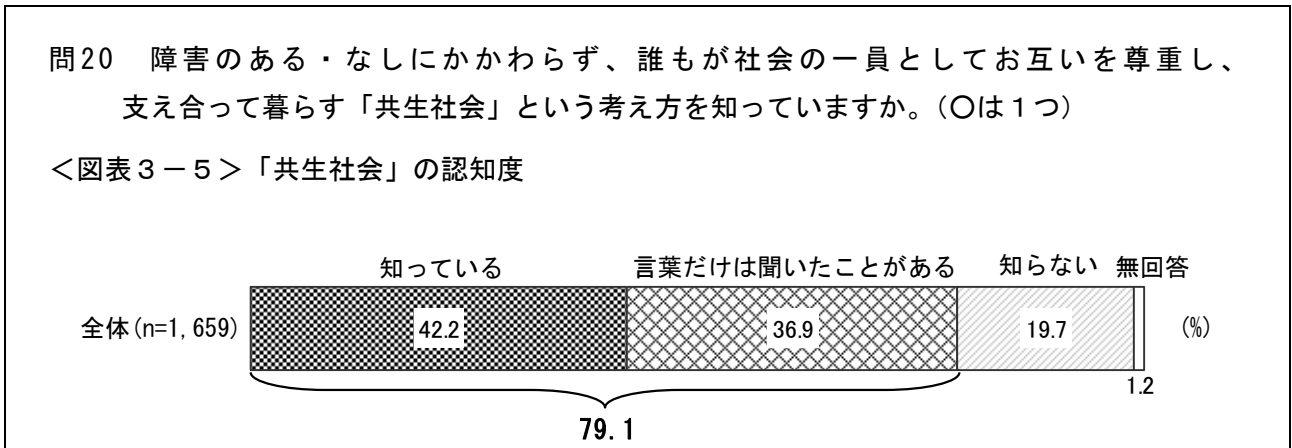
一方、『そう思わない(計)』は男性の40代(39.0%)が約4割、男性の50代(36.5%)が3割台半ばで高くなっている。(図表3-4)

<図表3-4>安心して暮らせる地域社会づくりについて／地域別、性・年代別



（3）「共生社会」の認知度

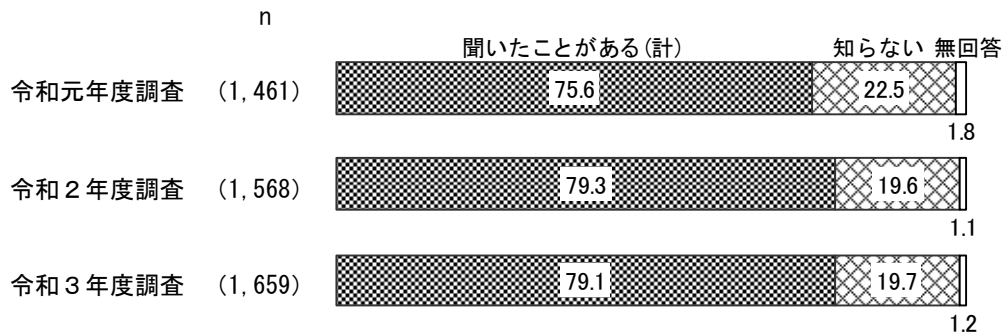
◇『聞いたことがある（計）』が約8割



「共生社会」という考え方を知っているか聞いたところ、「知っている」（42.2%）と「言葉だけは聞いたことがある」（36.9%）を合わせた『聞いたことがある（計）』（79.1%）が約8割となっている。

一方、「知らない」（19.7%）が約2割となっている。（図表3-5）

〔参考〕 令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、「知らない」は“海匠地域”（36.8%）が3割台半ば、“君津地域”（29.6%）が約3割で高くなっている。（図表3-6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表3-6）

＜図表3-6＞「共生社会」の認知度／地域別、性・年代別

